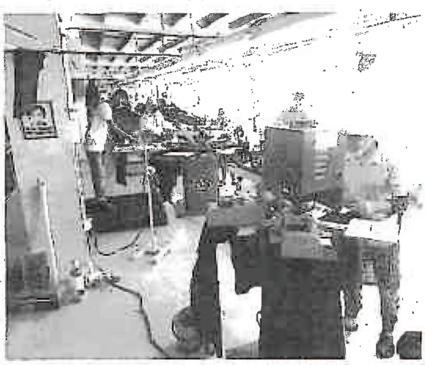
丸久のバングラデシュ工場

設備投資で人員効率化

コストアップに対応

丸久（徳島県鳴門市）のバングラデシュ法人マルヒサ・パシフィックは、カットソーの一貫工場の各工程で急速に合理化を進めている。今年1月に実施された労働法改正による人件費の増加をはじめ、ガスや水道料金も大幅に上昇している一方で、日本向けFOB（本船渡し価格）は据え置きや下げ止まりが見られないため、合理化でコストアップ分を吸収し、収益性と競争力を高める。（近藤康弘）

昨年1月に2860人だった従業員数を今年5月までに2260人に減らした。更に裁断セクションに延反機4台、CAM（コンピューターによる生産）2台を導入し、6月末までに同セクションの人員を半分以下の90人にスリム化する。プリントセクションではライン構成の変更や外注の活用、自動機の導入により現在の155人から絞る。プリント機は全自動機と半自動機で生産効率やコストを検証中だ。縫製ラインではICチップを導入し、工員ごとの生産の進捗状況の把握、それに基づく評価で賃金への反映やモチベーション向上につなげる。


プリントでは自動化の方法を検証中

今年1月から実施された同国の新ルールでは、これまでEPZ（輸出加工区）内で一律10%の昇給が必要だったのが改められ、半数の従業員に10%の昇給を義務付けながらその他は5%以上の昇給となったため、「働きを評価する意味合いが出てきた」（佐川康司マルヒサ・パシフィック社長）とする。

アパレルメーカー向けシステム開発を行うアベイルの「経営改革APプラス」を導入し、糸や生地、付属などの管理状況を可視化し、丸久の国内外の工場間を連動させる。主力の子供服以外の婦人・紳士物や大ロットの縫製ではハンガーシステムを増やして効率を高める。ミシンオペレーターに付くヘルパーを減らす取り組みも続ける。日本人駐在員を減らし現地の管理者への置き換えも進めている。

染色工場は3月から休業日を減らし、外注を抑えて内製化比率を95%まで高め、増産に成功した。

バングラデシュでは縫製工の最低賃金が大幅に上昇しており、省力化や設備の導入による生産の効率化が課題となっている。

総合展一新、トレンド重視

田村駒　素材はブランド別に表現

表現したブースを作り、ホーリネスは天然素材使いのアイテム、キッチュは遊び心のあるデザインを取り入れた大人のガーリースタイルを提案。撥水や吸

シャツ地「コンフィール」や綿タッチのポリエステル生地「ポリコット」、生地のファクトリーブランド「フィルジータ」などヒットしているオリジナル生

下期の底上げで増収増益

川越政　3月期　輸出と製品OEM伸ばす

服地コンバーターの川越政（大阪市）の19年3月期決算は、下期のテキスタイル輸出と製品OEM（相手先ブランドによる生産）事業の底上げで、売上高が24億2900万円（前期比11・1%増）となった。上期までは前年並みで推移していたが、若手の戦力化や適正人員配置も奏功し、創業以来最高となる売り上げを達成し、経常利益も27%増だった。

テキスタイル事業は、割繊糸使いをはじめとする合繊がリードし、ウール・シルク織物や綿のコーデュロイも幅広く支持され19%増だった。

輸出は欧米や中国、韓国、豪州向けが伸び74・4%増で、特に中・韓の比重が高まった。外国人インターンシップからの正社員登用などで海外担当部門を増強し、カジュアルから中高級プレタブランドまで販路が広がり、新規ブランドとの取り組みが増えた。

OEM事業は9・3%増で、厚手の綿パーカなど営業発のカジュアルウェアがロングランのヒットとなり、リピート需要の拡大で下期に貢献した。生産管理を一元化し、産学連携アルバイトの採用などで体制を強化して効率化した。

今期は「筋肉質の企業作り」を堅持しつつ、ベトナムでの生産・販売拠点作りを準備しながら、アジア市場の開拓に取り組む。また、「人材は企業の体幹」と位置づけて、業績底上げの原動力となった20～30代の若手や幹部の育成に力を入れる。

装　ルシアンのアウター向け

心としたアパレル用途、カーテン用途がほぼ半々だったが、アパレルを伸ばしたい考え。新た

クラシックと未来的な要素をミックス

「ワイズ」と協業　ランウェーで披露

伊アルカンターラ

イタリアの人工皮革メーカー、アルカンターラは、「ワイズ」との協業で、東京・表参道ヒルズでランウェー形式の19年秋冬カプセルコレクションを披露した。両者の取り組みは5年ぶり。

スエード調や銀面調のアルカンターラの素材を使い、オーバーサイズのキルティングコート、素材全面に箔プリントしたメタリックなトレンチやモッズパーカ、テーラードジャケットなど、クラシックと未来的な要素をミックスした。

コレクションは今秋、表参道の旗艦店を皮切りに、国内の限定されたワイズストアで販売する予定。

ショーに合わせて来日したアルカンターラのアンドレア・ボラーニョ会長兼CEO（最高経営責任者）は、「ワイズとは5年前に素晴らしい協業ができ、それ以来良い関係を築いてきた。互いが融合することで、予測できない、思いがけないものが生まれる。アルカンターラの先進性をアピールする機会になった」と話した。

か、国内営業を通じて「外・外」も増やす。前中期経営計画では、不採算事業の撤退を進め、「モノ売りからコト売りへ」を目指したが収益化が遅れた。今後はスマートテキスタイル関連や次世代デニム「アクアテック」などを伸ばすほか、生産の「見える化」と自動化にも力を入れる。

シキボウは、原糸が利益改善も需要低下により減収で、中東向けトーブ地も減収だった。ユニフォームは別注が好調だったがコスト増で減益。リビングは羽毛価格の高騰で数量が減少した。インドネシアの生産拠点メルテックスは18年上期が糸需

19年3月期決算分析　④

紡績の繊維事業の19年3月期連結

（単位：百万円、カッコ内前

▼減・赤字、下段は20年

社　名	繊維売上高	繊維営業利益
ダイワボウHD	75,088（　5.7） 75,700（　0.8）	3,230（▼2.4） 3,500（　8.4）
クラボウ	59,754（▼6.8） 56,700（▼5.1）	▼956（　—　） ▼500（　—　）
日清紡HD※1	43,659（▼2.2） 55,000（　—　）	1,250（▼31.3） 1,600（　—　）
シキボウ	22,681（▼3.8） 23,000（　1.4）	▼76（　—　） 100（　—　）
富士紡HD	11,550（▼6.7） 10,800（▼6.5）	636（▼34.5） 500（▼21.4）
オーミケンシ	7,880（▼1.6） 8,200（　4.1）	8（▼95.1） 160（20倍）
日東紡	4,862（▼1.7） 4,000（▼17.7）	▼373（　—　） ▼100（　—　）

※1　日清紡HDは12月期決算に変更のため、18年

～12月）と19年12月期予想を記載。増減は調整後の

率の前年は17年4月～18年3月の数字

※2　繊維比率はセグメント合計の売上高に対する

内は前年の繊維比率

たが、合繊・レーヨン部門でのコストアップや昨年10月からの市況悪化の影響を受けた。合繊・レーヨン部門は2月から衛材・コスメ関連が持ち直しており、今期からは製造ラ

ーム地など主力事業が堅調だったが、海外向けスパンデックス糸の販売やニッシントーア・岩尾のアパレル向け衣料品などが低調で苦戦。今後はインドネシアを拠点とした「外・外」の拡大を進めるほか、スパンデックス「モビロン」や不織布「オイコス」などで一段と開発に力を入れていく。

更に筋肉質な体制へ

構造改革を一段と進めるのは富士紡HD。素材関連は規模を縮小しつつも新しい設備を導入し品質や生産性を高め、筋肉質な体制を構築する方針。紡績の大分工場は現在1万錘

んでいく。

日東紡は、中国から国内への生産移管を進めたことで、操業度が改善するなど収益性が向上。19年3月期は、赤字幅が約8000万円縮小しており、消臭機能や非フッ素加工、ストレッチ芯地など高付加価値芯地に注力し、メンズ分野も強化。今期黒字化を図る。

オーミケンシも機能レーヨンや、製紙用ショートカットファイバー、メディカル専用レーヨンわたなど強みのある高付加価値商材の拡販に力を入れていく。中国での販売については、コスメとアパレル向けを重点に絞り、産業用途も狙っていく。

一方、紡毛糸は、生産、輸入と

の輸出が大きく伸びた。

「ブラザーワールドジャパン」に出展

イメージ・マジック

オンデマンドプリントのイメージ・マジック（東京、山川誠社長兼CEO＝最高経営責任者）は、プリンターや複合機のブラザーグループが主催した「ブラザーワールドジャパン」に出展した。

IoT（モノのインターネット）を活用したTシャツのプリントサービス「ODPS」（オンデマンド・プリント・ソリューションズ）を全国のブラザー販売取扱店にアピールした。

ODPSは、ブラザー販売のガーメントプリンター「GTX」と、イメージ・マジックの受注・情報などを一元管理するクラウドマネジメントシステムをAPI（ソフトウェア同士が連携するための仕様）連携することで実現した。Tシャツ1枚のプリント加工が、注文から出荷まで5分で完了する。作業時間を大幅に短縮して倉庫や工場の人手不足を解消、人件費の削減にもつなげられるもの。

ブラザー販売のガーメントプリンター「GTX」でプリントする

『海獣の子供』と協業して書道展

YKK

YKKのイベント・コミュニティー施設「ものづくり館by YKK」は31日から6月15日まで、知的障害を持つ人たちの書道作品展を開催している。書道教室を主宰する居原田礼子氏の指導を受けた知的障害を持つ41人の生徒が、漫画『海獣の子供』に登場する言葉を書道で表現した。作品はファスナーを使ってユニークに展示している＝写真。

海では
どんな
ことも
起こる
もんさ

同作品展は、YKKが映像制作会社のSTUDIO4℃と協業で企画した。海獣の子供が映画化され、6月7日から公開されるのを記念したもの。

6月下旬、岩手で開催

東北アパレル産業機器展

第43回東北アパレル産業機器展（東北六県縫製団体連合会主